

医師確保計画策定ガイドライン（令和5年3月31日）

1. 前回の医師確保計画策定ガイドライン（H31.3）からの主な変更点

前回のガイドライン（H31.3）	今回のガイドライン（R5.3）	
医師偏在指標※及び必要医師数の基となる医師数 ・三師調査における主たる従事先：1人として算出 （産科・小児科医師偏在指標も同様） ・産科の医師偏在指標における医師数は、三師調査における産科医師・産婦人科医師の届出医師数で算出	・三師統計における主たる従事先： 0.8人 、 従たる従事先 0.2人 として算出（産科・小児科医師偏在指標も同様） ・三師統計で、「過去2年以内に分娩の取扱いあり」と回答した医師のうち、産婦人科・産科・婦人科を主たる診療科と回答した医師数を用いる ・名称を「産科医師偏在指標」から「分娩取扱医師偏在指標」に変更する	前回（R5.3.17） 医対協で報告済

※医師偏在指標とは、全国ベースで医師の多寡を統一的・客観的に比較・評価する指標として、人口10万人対医師数を基に次の5要素を考慮し定めたもの。

1. 医療需要及び人口・人口構成とその変化、2. 患者流出入、3. へき地等地理的条件、4. 医師の性別・年齢分布、5. 医師偏在の種別（区域、診療科、入院/外来）

2. その他

・医師偏在指標の算出に用いる受療率については令和2年（最新）のものではなく、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない平成29年の患者調査を用いて算出 ・医師偏在指標の算出に用いる受療率は、前回と同様に全国受療率を用いて算出 ・国において一定の仮定の下で算出した勤務施設別医師偏在指標（病院と診療所を区別）を算出し、全体の医師偏在指標の参考資料として都道府県に提示 ・2036年における医師偏在指標を都道府県に提示 ・現医師確保計画（2020～2023年度）に係る評価結果を記載 ・全ての都道府県、二次医療圏について目標医師数を定めること など	前回（R5.3.17） 医対協で報告済 ガイドライン（R5.3.31） 記載の追加情報
--	--

国提供データ（医師偏在指標暫定版 令和5年3月31日）

都道府県別医師偏在指標

	医師偏在指標	全国順位 (47都道府県)	区域※	参考（前回計画策定時（令和元年度））		
				医師偏在指標	全国順位	区域
全国平均	255.6	—	—	239.8	—	—
大阪府	288.6	7	医師多数 都道府県	275.2	6	医師多数 都道府県

※国が、全国47都道府県のうち、上位33.3%を医師多数都道府県、下位33.3%を医師少数都道府県と区分

二次医療圏別医師偏在指標

	医師偏在指標	全国順位 (335医療圏)	区域※	参考（前回計画策定時 （令和元年度））	
				医師偏在指標	区域
全国平均	255.6	—	—	239.8	—
豊能	350.7	14	医師多数区域	351.0	医師多数区域
三島	277.5	53	医師多数区域	261.7	医師多数区域
北河内	232.4	92	医師多数区域	225.0	医師多数区域
中河内	205.5	143		191.4	
南河内	286.0	48	医師多数区域	280.4	医師多数区域
堺市	225.6	96	医師多数区域	216.4	医師多数区域
泉州	218.8	109	医師多数区域	198.1	
大阪市	369.0	10	医師多数区域	347.4	医師多数区域

※国が、全国335二次医療圏のうち、上位33.3%を医師多数区域、下位33.3%を医師少数区域と区分
※網掛け部分は、医師偏在指標が全国平均未満の二次医療圏(病院別、診療所別も同様)

病院医師偏在指標

	医師偏在指標	全国順位 (335医療圏)
全国平均	175.9	—
豊能	255.4	16
三島	194.4	55
北河内	156.8	97
中河内	122.4	201
南河内	208.1	43
堺市	139.0	145
泉州	145.1	131
大阪市	263.1	13

診療所医師偏在指標

	医師偏在指標	全国順位 (335医療圏)
全国平均	79.7	—
豊能	93.8	26
三島	82.1	67
北河内	75.4	96
中河内	82.7	65
南河内	75.4	97
堺市	87.4	44
泉州	73.2	116
大阪市	110.1	6

国提供データ（標準化医師数、目標医師数等 令和5年4月7日）

圏域名	医師偏在指標 (2022年)	標準化医師数※1 (2022年) (人)	目標医師数※2 (2026年) (人)	2022年の医師偏在指標を 維持するための医師数 (2026年) (人)
全国	255.6	323,700	-	311,448
大阪府	288.6	25,300	19,490	24,586
豊能	350.7	3,682	1,900	3,714
三島	277.5	2,087	1,334	2,063
北河内	232.4	2,709	2,051	2,656
中河内	205.5	1,548	1,283	1,469
南河内	286.0	1,800	1,074	1,713
堺市	225.6	1,996	1,559	1,960
泉州	218.8	2,060	1,609	1,962
大阪市	369.0	9,418	4,418	9,086

※1:三師統計の届出医師数に仕事率(性別・年齢ごとの平均労働時間)を乗じたもの

※2:全国335二次医療圏のうち、下位33.3%に該当する二次医療圏が下位33.3%を脱するために必要な医師数

※網掛け部分は、医師偏在指標が全国平均未満の二次医療圏(小児科、分娩取扱医師偏在指標も同様)

今後の国提供予定データ(7月末頃)

- ・ 2036年の医師偏在指標
- ・ 2036年の必要医師数
- ・ 2036年の医師供給数

小児科医師偏在指標、標準化小児科医師数

圏域名	小児科医師偏在指標	全国順位 (307医療圏)	標準化小児科医師数※1 (2020年) (人)
全国	115.1	—	17,634
大阪府	120.4	—	1,294
豊能	117.9	106	194
三島	125.1	82	125
北河内	93.2	199	113
中河内	90.3	217 (医師少数区域)	75
南河内	145.5	33	98
堺市	116.7	112	105
泉州	123.5	89	152
大阪市	131.5	61	433

※1:三師統計の届出医師数(小児科医)に仕事率(性別・年齢ごとの平均労働時間)を乗じたもの

分娩取扱医師偏在指標、標準化分娩取扱医師数

圏域名	分娩取扱医師偏在指標	全国順位 (284医療圏)	標準化分娩取扱医師数※1 (2020年) (人)
全国	10.6	—	9,396
大阪府	11.8	—	680
豊能	16.7	25	129
三島	10.2	105	62
北河内	10.5	99	65
中河内	8.0	172	40
南河内	11.0	93	41
堺市	11.4	83	58
泉州	9.1	136	67
大阪市	13.3	45	218

※1:三師統計の届出医師数「過去2年以内に分娩の取扱いあり」と回答した産婦人科、産科、婦人科医に仕事率(性別・年齢ごとの平均労働時間)を乗じたもの